

## 「二高白神プロジェクト」 第3回招へい講座

平成29年11月10日（金）の総合的な学習の時間に「二高白神プロジェクト第3回招へい講座」を実施いたしました。

本校では総合的な学習の時間を中心に、世界自然遺産「白神山地」の魅力伝えることのできる生徒を育成する「二高白神プロジェクト」に取り組んでいます。

その活動の一つ、外部の有識者からの白神山地に関する講義「招へい講座」は、今回が今年度最後の回となりました。

**講師** 秋田県立大学 生物資源科学部 准教授 星崎 和彦 氏  
**演題** ブナの本場、北東北におけるブナの生態とブナ林の行く末



講師の星崎和彦先生



タイトル

今回の講話のテーマは「ブナの本場、北東北におけるブナの生態とブナ林の行く末」で、森林の管理と人間の関与に関するものでした。お話の前半はブナの特徴と樹木の一生についてでした。東北の森林に多く分布するブナは気候が湿潤なところで成長し、東北は雪が多いため湿潤な気候で、ブナの生育環境として適しているそうです。先生はブナの他、ミズナラ、トチ、サワグルミといった日本の森林の代表的な樹木のそれぞれの特徴についても話してくれました。



樹木の一生について



招へい講座も3回目。かなり理解できるようになったでしょうか。

ブナの実はおいしく、クマやネズミなどの野生動物が好んで食べます。ブナの結実を観測していると年による変動、つまり「豊凶」があって、たくさん実がなる年とならない年がある。なぜ、そうなのか。これには意味があると先生は言います。「ブナが一度にたくさんの花を咲かせることで受粉の失敗が少なくなり、多くの実を作ることができる。また、大量の実を作れば野生動物によって食べ尽くされることはない。ブナの実が豊作なら動物の数も増えてしまうが、凶作の年には減る。バランスを取りながら存続しているのだ。」ブナの実が少ないと食べ物のないクマなどが食料を求めて山から下りてくるそうですから、このごろはブナの凶作の年が続いているということでしょうか。



ブナってすごい！



興味深いお話、ありがとうございました。

最後に代表生徒が今回の講演で学んだことを述べ、星崎先生に感謝の気持ちを表しました。

### ～～ 生徒の感想から 一部を紹介 ～～

ブナはクマなどの動物と深く関連していることがわかりました。ブナの結実がよいとクマの出没が少なく、結実が悪いとクマの出没が多くなるということがわかったので、ブナをもっと増やす植林活動をすすめるべきだと思いました。

今日の講座でブナのことがよくわかりました。特にブナ林の世代交代が印象に残りました。世代交代には地震等によるものもあることがわかりました。ブナだけでなく他の植物の生態系も知ることができてよかったと思います。

ブナは300年程度生きられ、暗い環境でも耐えて育つこと、ブナの実を食べられるということ、ブナの生態系などなど、これまで知らなかったことを丁寧に教えていただきました。これからも白神の自然を大切にしていきたいです。

今回の白神プロジェクト招へい講座を聴いて、日本のブナ林と多くは北日本と日本海側に分布していることや、国外にもブナ林があるが、世界のブナは12種類しかないということを知りました。また、ブナやミズナラ、トチ、サワグルミといった原生林の種類や特徴がわかりました。

ブナは温潤な気候でしか育たないことと、ブナがなぜ「撫」と書くのかを初めて知ることができました。世界には12種のブナがあるそうで、他の種類のブナの特徴を調べてみたいと思いました。

今回学んだことを元に、植物をいたわる心を持って来年からの白神プロジェクトに取り組んでいきたいと思いました。

星野先生、本日はありがとうございました。